

HP: <https://rakuno.org/>

同窓会通信－野幌だより－

酪農学園同窓会ニュースレター

高校・短大・大学 同窓生関連の最近の話題

トピック（スケジュール）

07月04日 農経30周年同期会
07月04日 ホームカミングデー
07月04日 短大同窓会代表委員総会
07月04日 貴農同志会総会
07月04日05日 大学祭（白樺祭）
07月18日 長崎県支部総会
07月26日 新潟県支部総会
08月29日 兵庫県支部総会
09月03日 貴農同志会懇話会
09月07日 獣医12期同期会
09月09日 獣医3期同期会
09月12日 関東東京神奈川合同総会
09月17日 獣医8期同期会
10月03日 青森県支部総会
10月09日 獣医学科三愛賞授賞式
10月11日 大学アーチェリー部同窓会
10月21日 肉製品ゼミ8,9期同窓会
11月02日 短大784の会
11月11日 短大Ⅱコース9期同期会
11月14日 道南地区同窓会



ホームカミングデー「同窓のつどい」開催報告



去る7月4日（土）、天候にも恵まれて第33回を数えるホームカミングデー（酪農学園主催）が開催されました。昨年から大学同窓会校友会と酪農学園同窓会の共催による「同窓のつどい」が、「合同周年同期会」に代わるものとして開催されています。参加対象を大学・短大・高校の卒業生および現旧教職員とその家族として、今年は酪農学園ホール（大学生協）1階ラウンジで行われました。

会場の学園ホールは、今年新たに改装された所で、同窓生や学園関係者約150名をお迎えして牛乳やアイスクリーム、オードブルでのおもてなしとなりました。

1時半から開始された「同窓のつどい」は、野英二会長の歓迎の挨拶後、金子正美先生の乾杯により始められ、中出哲也副会長の司会進行でビンゴゲームも開催され、世相を反映したガソリン券やお米券、学園グッズ等も商品に彩りを添えました。

短期大学同窓会総会や貴農同志会総会も前に開催され、恩師や短大同窓会や創世寮OB、近隣の方々に加え、遠くは福岡、奈良、東京、群馬等全国各地から、「同窓のつどい」に参加していただきました。

その後、白樺並木での記念撮影後に、1時半から黒澤記念講堂において、この1年間でご逝去された永眠者の追悼礼拝や記念講演が開催され、今年は4名の女性による講演が行われました。講演内容は動画サイトに掲載されておりますのでご覧ください。

また、7月4日、5日の両日は白樺祭（大学祭）も同時開催されており、模擬店等大勢の地域住民や学園関係者等で大変賑わっていました。

酪農学園同窓会の現況(卒業生数)2026.04.01

2025年度 累計卒業生数

大学院	計	1,812名
大学	計	35,544名
短大	計	9,487名
高校	計	22,584名
合計	計	69,427名

酪農義塾	計	303名
酪農学校	計	*91,517名

* 出典酪農学園史2巻より

総合計 161,247名

地区支部の設置状況（ ）は未設置

北海道1区：石狩	3支部（1）（江別）
北海道2区：道央	6支部（2）（空知1）（胆振2）
北海道3区：道南	5支部（2）（後志1）（後志2）
北海道4区：道北	6支部（1）（留萌1）
北海道5区：道東	6支部（0）26支部（6）
東北地区	：6支部（0）
関東甲信越地区	：10支部（0）
中部地区	：7支部（0）
近畿地区	：6支部（0）
中国地区	：5支部（0）
四国地区	：4支部（0）

目次：

ホームカミングデー「同窓のつどい」報告	1
機農高校酪農経営科4期生同期会	2
近畿地区支部長会議報告	3
我妻尚広先生定年退職記念の集い報	3
酪小獣東北総会ならびに研究会報告	3
九州地区長崎県支部総会報告	4
編集後記	4

同窓会開催報告

機農高校酪農経営科4期生同期会開催報告



私たちは1969年機農高校を卒業してから、今年で57年になります。

この歳になるまで、本会を続けてこられたのは、同期生たちの中に旗振りする者たちが沢山いたからです。

ただ、ここ数年の間に、その幹事を賜った者たちが次々と他界する年齢となっています。

自分は80歳あたりを一応の線引きと考えているのだが、果たしてその時になってみないと分かりません。

開催ごとに学園から助成いただき、また近況発表の場も与えていただき、自分は大変うれしく思っております。

今回のニュースといえば、恩師の西川求先生が2024年11月に他界されたことと、その先生からお預かりしていた、私たち教子への応援メッセージを、このような形でお伝えすることになるとは、思いもしませんでした。

すこし本来の趣旨とは外れてしまっていて、お蔵入りになるどころだった寄稿文をこのような形でお伝え出来たのは、よかったと思っております。

内容は割愛させていただきますが、自費制作しました。若干在庫があればお譲り可能です。

当日参加されました40名様と学園、西川家関係者に配布いたしました。さて、今回の同期会は網走市、網走湖荘で2026年6月25日に開催しました。

恩師であった御三方の恩師は二人が亡くなり、お一人は施設を訪れた際、病院入院中とのことで、それ以上のことは秘密で一切教えてはもらえませんでした。

某S恩師は、私の知る限り、5回施設を転々としており、その都度移転先を施設からは教えてもらうことはできませんでした。が、幸い今回の施設一つ前までは、年賀状を毎年頂いておりまして、その都度移転先の住所を知ることができてきました。今回は年賀状はもらえず、別な知人を介して所在を知ったのです。

このような秘密厳守の縛りが、果たして世の中を本当に良くするとは思えません。ますます人との絆を希薄なものにして行くばかりです。

15年もたった東日本大震災では、50年以上も前にお世話になった、陸前高田在住の恩師の行方が今だ分らず。それは自然災害だけでなく、人災としての機密保持が横たわっている現実があります。恩師はご高齢で震災時御存命かどうか不明なのですが、一人娘さんがおられたので、その嫁ぎ先などを知りたいと考えたのですが、そこは個人情報という大きな壁が立ちました。人間としての〇〇を非常に欠くという結果となりました。別な言い方ですと義理を欠くこととなります。

自分は毎回集合写真の撮影も同期として依頼されているので、機材持ち込みには、どうしても車での参加となります。それも機材故障のリスクも考えて、毎回、機材は二セットを用意して対応してきました。

これは現役時代の取材と変わらないことなのですが、退職して取材の仕事をしなくなったので、機材は昭和の時代のもので、何時？壊れるかしれないものです。カメラだけはデジタルになりましたが、それでも20年くらいは経っていると思われます。

22日にフェリーで来道して、同窓会事務局の浦川氏に毎回お会いして、学園の近況などをお聞きいたしております。学園の様相は私たちが学んだ時とはかなり変わり、当時と変わらないのは、同窓会の事務局となっている塔のある木造校舎、二コースが3年間お世話になった建物です、また学園国道添いにあるレンガづくりの丸い建物は機農高校3年の時に希望寮として1年間お世話になった、旧精農寮もそのまま残っています。

今回卒業以来57年初参加が2人おられました。私は認識できるのですが、参加本人全くの浦島太郎状態。でも何回か話すうちに57年前と記憶は蘇ってゆきました。今まで参加できなかったことについては色んな諸事情があるとお聞きしましたが、これからと言ってもあと何回、同期会を開催できるのだろうか？正直、お二人ほど、危ないものがある？

私は23日に苫小牧に渡り、25日に標茶町の実家で、八戸6強の地震があったことを知った。

そのため同期会を済ませて、のち2日ほどの滞在で八戸の自宅へ戻った。夜中だったので近隣の状況は定かではなかったのだが、家の前に入ることができなくなっている。積んであった薪の棚が崩れ倒れていたのである。この原稿を書いている7月7日でもまだ手付かずの部屋があり、昨日はやっと工作道具などを収納している物置を片付けて、あと何日かかるのか？取り合えず今使う道具などを軽トラの上にそろえておく状態にした。幸い亡くなられた方はいないと聞いている。

話が前後するのだが、網走での機農高の同期会。実は私には今年の11月に、今回の同ホテルで酪短大二コースの同期会開催も決まっているのです。その幹事をやられる方と4人でホテル近隣の呼人浦キャンプ場でテント泊を楽しんだ。4人のうち2人は機農高生である。今回高校の同期何人かに声掛けしたが難しかったようだ。その代わり、話の延長で「俺参加する!」と申してくれたのが二コース2人でした。途中雨が降ってきたのだが、私の跳ね上げテントの下で、薪ストーブで焼き肉とビールを堪能して夜おそくまで話こんでしまった。翌朝小雨が残っており、時を見てテント撤収となったが、後日濡れたテントを乾かすのが厄介となるも、そう予想して今回ナイロン混紡生地にしたのが当たったようだ。

最近、特に思うのだが、私たち同期の年齢で、どれほどの数、SNSをやっているものがあるのだろうか？と考える。年若いと考えることが面倒に感じたら、すでにボケが始まっていると養老先生は言う。意欲が先か？体力が先か？若くても意欲の乏しいものは沢山いる時代。いわゆる若年寄という言葉をこのような状況の時に使うのかどうかの判断は難しいが、年齢相応よりも、意欲を持ち続けることが出来たら、大変素晴らしいことである。ソロソロ我が同期たちにも。その兆候が生じている。でドッチ？それは次の同期会を開催してみればわかること。次回はさっぱり周辺の仲間が幹事を受けてくれることになりました。

個人としては限界集落と言われるようなところで一度は、開催してほしいな？誰か手を上げてくれないかな。そんなところに住んでいた同期が1人いたのだが、すでに他界していた。残念である。

写真と原稿文責：園田益男 八戸市妙字花生番地 在住。（標茶町出身） 同期会開催日 2026年6月25日 網走市 ホテル網走湖荘にて

同窓会開催報告

近畿地区支部長会議報告

7月26日 近畿地区支部長会議を開催

開催場所：TKP ガーデンシティプレミアム大阪駅前

出席者：近畿地区長山本浩光、大阪府支部長吉田文三、兵庫県支部事務局長河野雅晴、京都府支部長永福裕一、滋賀県支部長里田春男、奈良県支部長梶山佳秀、和歌山県支部長澤竹孝幸
山本近畿地区長よりの挨拶

○ 2026年度の酪農学園同窓会 代議員会の報告および内容説明を行った

○ 大学の現況など情報交換

○ 校名変更について討議

・校名変更が大学志願者増につながるのか？

・大学の改革が必要なのでは？

・同窓会に色々な意見があっても最終的に大学のトップが決断するのではないか

・各学類の中身の充実

・志願者増につながるような取り組みを同窓会と入試広報部との連携が必要

○ 同窓会活動の難しさ

・若い世代の参加者が少ない。支部役員の後継者の不足。

・以前のような母校愛が希薄になってきているのではないか。

・同じゼミや研究室で少人数の集いがあるが

○ 府県単独での開催が困難な状況の実態を踏まえ、近畿各府県統一して合同の同窓会開催を望む声もあり今後の検討課題とした。

我妻尚広先生定年退職記念の集い報告



2026年7月11日（土）18時より、定山溪万世閣ホテルミリオナーにて、我妻尚広教授の定年退職記念の集いが開催されました。

神戸、埼玉、山形などの本州勢をはじめ、道内各地（富良野、旭川、石狩、当別、札幌市内）から、資源植物学研究室や植物育種学研究室の卒業生14名が勢揃いしました。

我妻先生からは、24年間にわたる酪農学園での歩みを振り返る貴重なお話をいただき、一同深く聞き入りました。

続くテーブルスピーチでは、「先生のアドバイスの今の仕事につながっている」という感謝の声や、「卒業でソバのスケッチを毎日必死に続けた」という懐かしいエピソードなど、当時の記憶が鮮やかに蘇る笑顔あふれる時間となりました。二次会でも夜遅くまで我妻先生を囲み、尽きない思い出話で大いに盛り上がりしました。

我妻先生は現在も、北大総合博物館の資料部研究員として研究活動を継続されています。これからも健康に留意され、ますますご活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。

（文責 岡本吉弘）

酪小獣東北総会ならびに研究会報告



日本三景の一つと謳われる宮城県 松島町。高台に立てられ、眼下にその松島の島々を一望できる「ホテル松島 大観荘」にて、本年度も酪小獣東北総会ならびに研究会を2026年7月12日（日）に実施いたしました。

当日は、まさにこの梅雨時期らしい、降雨もあり、ジメジメとした天候ではありましたが、東北の各地より会員にはお集まりいただき、開催となりました。Zoomにて、研究会を実施しておりますが、1年ぶりの「リアル」での再会に、互いの近況報告など、総会開始前より、話も弾んでおりました。

さて、総会は、安藤 太会長（25期）の挨拶に始まり、議長の本内 充先生（24期）の下、議事も円滑に進行し、無事総会も終了しました。

研究会は酪農学園大学付属動物医療センター 病院教員の酒谷 篤先生を講師として招聘し、「犬と猫の腎泌尿器疾患」について、ご講演をいただきました。日々、臨床現場で求められる知識や手技、検査、治療など、最新の知見に基づきご講演いただき、非常に有意義な時間となりました。翌日からの診療の一助となる講演に、参加した会員一同、感謝の気持ちでした。

懇親会は、1次会は宮城の地元の料理に舌鼓を、2次会では、東北各地の日本酒などで、日付が変わるまで（毎回ですが・・・）、呑み、語らい、同窓での交友を深めることができ、大変楽しい時間となりました。また、ご参加いただいた先生方には、各位、様々な貴重な地元産品を差し入れていただきました。この場をお借りして、感謝申し上げます。ありがとうございました。

来年も同時期に開催予定ですので、今回ご参加が叶わなかった先生も、ご都合がよろしければ、是非ご参加ください。

（文責 庄子 賢 33期）



〒069-8501

北海道江別市文京台緑町582

酪農学園同窓会

電話 011(386)1196

FAX 011(386)5987

Email: rg-dosok@rakuno.ac.jp.



酪農学園同窓会

酪農学園100周年記念寄付事業

創立100周年記念寄付事業

2024ホームカミングデー チャリティTシャツ募金

2,000円で購入いただくTシャツの一部が募金になります。

Tシャツ原価を引いた1,000円程度が

学校法人酪農学園 創立100周年事業への寄付になります。



Tシャツの色: ネイビー
左胸ワンポイント
・背中A4サイズ程度(白プリント)
※画像はイメージです。実際の生地の色やデザインが変わることがあります。

募集要項(7月よりホームページにて全文公開)

1. 募金の名称 創立100周年記念事業募金
2. 募金の目的・使途
施設の大規模改修・再編
(1) 大学: 研究・実習施設の整備・新設、事務管理棟の集約化など
(2) 高校: 基本方針として、現有施設を活用し続けるための計画的改修など
(3) 附属施設: 旧精農寮保存のための改修、馬術部施設の移転・新設、研修館周りのインフラ整備など

問合せ先: 事務局財務課 011-388-4148 (寄付担当)



酪農学園大学

ブランドマークとキャッチフレーズ

生きるを学ぶ。
学びが生きる。



九州地区長崎県支部総会報告



去る7月18日(土)、午後5時から諫早市内の焼き鳥割烹伊佐早を会場にして、令和8年度の長崎県支部同窓会総会が10名出席のもと開催されました。

総会では、岩永政弘長崎県支部長の歓迎の挨拶のもと、令和7年度事業報告及び収支決算報告(監査報告)、令和8年度事業計画及び予算承認(案)についての議事が審議され、それぞれ承認されました。

続いて、令和8年12月に佐賀市に於いて開催されます『九州地区酪農学園同窓会in佐賀』について、岩永支部長より説明がありました。

2年に1度に九州各県持ち回りで開催される本大会は、前回の令和6年11月に大分県内で開催され、次の当番県となる佐賀県で、令和8年12月5日(土)に佐賀市内の「ホテルグランデはがくれ」で開催されることが伝えられると、早速、宿泊先、交通手段、誰と行くか、他県同窓生の仲間に連絡する等、うきうきでした。

なお、総会終了後は、同会場で午後6時頃から中尾正宏(獣医学科)より乾杯の発声でスタートし、終始和やかな雰囲気で大盛況を見せ、出席者全員による近況報告が行われました。特に第2の人生を謳歌するため、新しく就職された方、定年を機に、夢と希望に満ちた大学時代にタイムスリップした雰囲気でした。

(文責 事務局 久保達彦)



編集後記

7月のホームカミングデー「同窓のつどい」では全国各地から150名を超える同窓生にご参加いただき、厚くお礼を申し上げます。

北海道も夏本番となり、これから8月になり後半戦を迎えていきます。8月上旬からは学生も夏季休業となります。

この記事を作成中の28日夕刻に「熊本地震」が発生しました。被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。

ちょうど10年前の2016年4月にも巨大地震がありました。これから厳しい暑さが予想されていますので体調管理に十分気をつけてお過ごしください。